

せんげん台駅東口雨水貯留施設整備に関する説明会

主な質疑応答一覧

Q1：どのくらいの雨に対応できるのか？

回答：平成27年9月の関東・東北豪雨で越谷市が記録した時間最大53mm、総雨量402mmに対応できるよう設計しております。

Q2：令和8年8月千葉豪雨（千葉市中央区で時間最大115mm、24時間降水量367mm）には対応できるのか？

回答：令和8年8月の千葉豪雨は、時間雨量が100mmを超える過去類を見ない記録的な豪雨です。本事業は平成27年9月の豪雨を想定しているため、減災はされるものの、道路冠水は生じてしまうと考えております。

Q3：新たに整備したポンプだけでは冠水はなくなるのか？

回答：令和7年3月に稼働した新しいポンプゲートは従来の仮設ポンプの約2倍の排水能力があります。

しかし、平成27年9月の豪雨を想定したシミュレーションの結果、ゲートポンプだけでは不十分だったため、4,000m³の雨水貯留施設を整備することになりました。

Q4：完成すれば東口の浸水は「ゼロ」になるのか？

回答：雨の降り方にもよりますが、平成27年9月の豪雨レベルの雨であれば、新しい排水ポンプと雨水貯留施設の併用効果により、駅前ロータリー周辺の冠水はほぼ解消され、浸水被害は大幅に軽減されます。

Q5：東口駅前ロータリーから千間台第一公園付近にかけて、大雨時にいつもひどく浸水する。今回の対策で本当に緩和されるのか？

回答：今回の整備により浸水被害は大幅に軽減されと考えていますが、シミュレーション上、一部道路に水が残る結果も出ております。本施設を供用開始後に現地の状況を確認し、必要に応じて追加対策を検討いたします。

Q6：雨水管の能力は足りているのか？

回答：駅周辺の雨水管は設計基準に基づき十分な排水能力を確保して築造されていますが、雨の降り方や河川水位状況により満水になることもあります。そのため、今回雨水貯留施設の整備を行います。

Q7：雨水は普段から貯留施設に流れるのか？ 貯まるスピードや容量は？

回答：平常時は貯留施設に水は入りません。雨水は通常通り自然流下で河川（新方川）へ流れます。大雨により河川水位が上昇し排水処理が追いつかなくなった際に、雨水貯留施設へ雨水が流入する仕組みです。

平成27年9月の豪雨を想定したシミュレーションでは、雨が降り始めてから約13時間かけて満水（容量4,000 m³）に達する結果となっています。

Q8：空の雨水貯留施設が地下にある場合、地下水による「浮力」で構造物が浮き上がってしまう対策は考慮されているか？

回答：越谷市は地下水位が高いため、浮力の問題は重要です。設計の際に構造計算を行い、浮力対策も考慮した構造となっております。

Q9：溜まった雨水によるヘドロ等の清掃などのメンテナンスはどうするのか？

回答：複数箇所に点検口を設けており、そこでバキューム車などの清掃用機械を使用し、ヘドロ等を吸引します。

Q10：新たに整備した雨水貯留施設をリアルタイムで確認できる仕組み（水位計やカメラ映像の公開など）があると、住民の安心や早期避難に繋がって良いと思うが、検討はしているのか？

回答：ポンプ稼働状況や河川の水位データは市のホームページや国の「川の防災情報」でリアルタイムに把握できます。今回の雨水貯留施設についても、公開可能かどうか今後検討いたします。

Q11：工事による「車の渋滞」や「人の流れの変化」による混乱・事故防止策はどう考えているか？

回答：今回提示した規制エリアは発注者（市）側で交通管理者や皆様に示すための原案です。具体的な計画は次回の説明会にてお示しいたします。

Q12：工事中の騒音・振動、および作業時間帯（昼夜）はどうなるか？

回答：雨水貯留施設の本体工事は原則として昼間（9時～17時）を想定しております。

ただし、一部の雨水管移設工事は交通影響を抑えるため夜間工事も検討しております。

騒音や振動が大きくなる期間は、事前に近隣の店舗や住民の皆様へ個別にお知らせします。詳細な工程や対策は次回の説明会でお示しします。

Q13：説明会は今後行うのか？

回答：今後、受注業者が決定した後に受注業者と調整し、より具体的なスケジュールや安全対策などについて説明会を開催する予定です。

Q 1 4：新方川の河道（川底）に土砂やゴミなどの堆積物（埋まり）が目立つ。堤防のかさ上げだけでなく、根本的な「川底の掘削（浚渫）」を県や国に強く働きかけてほしい。

回答：貴重なご意見として本市の河川部門と共有し、国や県にもお伝えしてまいります。

Q 1 5：お風呂や生活雑排水が、大雨時に雨水と混ざって逆流するような心配はないか？

回答：越谷市は分流式を採用しており、生活雑排水（汚水）と雨水は別ルートのため、構造的に混ざって逆流する心配はありません。

ただし、道路冠水が生じるような豪雨時にはマンホールの隙間などから雨水が污水管へ少量浸入し、一時的に家庭内の排水が悪くなることが稀にあります。